



R6.6.5. 撮影

【巻頭言】

「広報『安達太良』第200号に寄せて」

福島県小学校長会安達支会長 鈴木 規男
(本宮市立本宮まゆみ小学校)

広報「安達太良」は節目の第200号を迎えました。創刊以来永年にわたって、本誌作成の基本方針である「校長同士の研鑽と交流、学校経営に寄与するとともに情報の交換や資料提供のための広報活動を推進する」という目的のもと、編集、発行に携わってこられた諸先輩方の熱意とご尽力に深く敬意と感謝の意を表します。

私の手元には、紙面で保存されているなかで最も古い平成11年（1999）発行の第115号の他、第162号と第188号の広報誌があります。今年度担当の校長先生のご厚意により用意いただきました。

第115号が発行された頃は、平成14年度からの完全学校週五日制の実施に対応して、新しい教育課程の基準である学習指導要領が告示された時期でした。その

【巻頭言】には次のような記述がありました。

「今日の学校教育がかつてない多くの、しかも重要かつ困難な課題をかかえ、その解決のために現在取り組まれています。（中略）この転換点に立つ管理職としてその使命を自覚して対処しなければならないと思います。」

第162号は、平成23年（2011）7月に発行されました。日本の観測史上最大の激震となった東日本大震災から3ヶ月を経過しようとしていました。その巻頭の言葉には、次のように記されています。

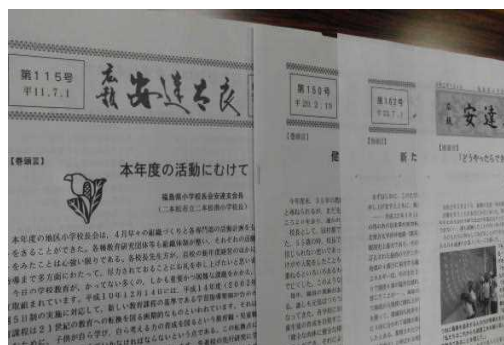
「まさに未曾有の天災であり、想定外である出来事に対する対応であり、（中略）しかしこのような中だからこそ会員の総力を結集し、東日本大震災復興促進を図る教育諸条件の整備・充実と確固たる経営方針に基づく活力ある学校経営を推進していかなければなりません。」

そして、第188号は令和2年（2020）新型コロナウイルス感染症の拡大により、長期にわたる臨時休業を経て、段階的に学校が再開した時期に発行されました。そのなかでは、「『新しい生活様式』に基づく学校経営には今までにない知恵と工夫がある。現場の最前線に立つ校長としての覚悟がある。（中略）安達地区小学校長会としてできることは何か。すべきことは何かを肝に銘じて・・・。」と記されています。

諸先輩方はその時、その時代の教育の不易と流行を見定めながら、教育内容や制度の変革に具体的かつ柔軟に対応されていたこと。そして、100年に一度、100年に一度といわれるほどの困難な局面においても、校長としての揺るぎない学校教育に対する信念をもって学校経営にあたってこられたことが誌面からもひしひしと伝わってきます。

現会員である私たちには、子どもたち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せである Well-being を実現していくために必要な力の育成が求められています。さらに、来年度の令和7年8月6日、7日には、主管支会として「第53回福島県小学校長会研究協議会安達大会」を運営します。

これからも広報「安達太良」には、本支会の確かな歩みが記されていくことでしょう。「安達は一つ」の合言葉とともに・・・。



【総務部活動計画】

「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長 石川 勝佳
(二本松市立小浜小学校)

1 活動方針・活動内容

- (1) 全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、協議・研修等の充実を図る。
 - 第76回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会(10月14日～15日 徳島市)
 - 第64回東北連合小学校長会研究協議会青森大会(7月4日～5日 弘前市)
 - 第53回福島県小学校長会研究協議会安達大会(令和7年8月)に向けた準備
- (2) 支会・各専門部の組織を十分に機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。
 - 年間計画に基づく研修や情報交換
 - ・全体研修会、方部別研修会
 - ・各専門部(研究部、行財政部、広報部、生徒指導部、経理部)の活動と情報交換
 - 創意工夫を凝らした運営
 - ・活動内容・方法等の工夫
- (3) 各種教育団体との連携を密にし、教育課題の解決と教職員の資質・能力の向上に資する。
 - 県小教研研究協議会の開催
 - ・社会科部会への協力(10月2日 油井小)
 - 地区小中学校長協議会との連携活動
 - ・総会 (4月12日)
 - ・安達地区教育長との懇談会(8月23日)
 - ・退職校長会との懇談会(12月6日)
 - ・役職定年校長感謝会(3月19日)
 - ・中堅教員等実務研修会(5月～8月)
 - 小中学校音楽祭、理科作品展、特別支援学級小中交流会・児童作品展、書写実技研修会

2 「安達は一つ」を実効あるものに

学校経営上の課題解決に向け、25名の会員が本音で語り合い、情報を共有するとともに、校長としての在り方について研修を深め「安達は一つ」を実効あるものにしたい。

【経理部活動計画】

適正・円滑な経理を期して

経理部長 芳賀沼 真由美
(本宮市立糠沢小学校)

1 活動の基本

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開できるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

2 会費の執行状況

- (1) 今年度会費(一人あたり) 70,000円
- (2) 今年度の各負担金(一人あたり)
 - 県小学校長会費 30,000円
 - 研究大会基金 1,000円
 - 東北連小会費 2,000円
 - 東北連小準備金 300円
 - 全連小会費 8,000円
 - 日本教育会費 3,100円
 - 小中連協会費 11,000円
 - 大会参加旅費積立金 1,000円
- (3) 賛助会費(一人あたり)
 - 退職校長会賛助会費 500円
- (4) 残りの会費
 - ・ 事業費や運営費等に計画的に充てる。
- (5) 旅費について
 - ・ 校長会研修会は、全て県費旅費となる。

3 経理部組織

二本松方部 児山 秀典(二本松北小)
東達方部 肥沼 志帆(東和小)
南達方部 芳賀沼真由美(糠沢小)

【行財政部活動計画】

教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長 佐藤 睦弘
(二本松市立原瀬小学校)

1 活動方針

- (1) 教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進する。
- (2) 当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原子力災害の影響に係る調査を継続して行うものとする。
- (3) 関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図り適時・適切な対応に努める。
- (4) 組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。
- (5) 全連小、全日中、東北連小・東北地区中及び関係機関との連携を図り、広い視野に立って課題解決にあたる。

2 活動内容

- (1) 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備充実
- (2) 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- (3) 当面する重要課題の調査研究とその課題解決

3 活動計画

- (1) 行財政部会
 - 組織・活動計画作成（4月）
 - 調査Ⅰ・Ⅱ及び特別調査の実施（5月）
 - 行財政上の課題把握（6・7月）
 - 要望活動の推進（8月～）
 - 活動の反省（1月）
 - 人事の反省（3月）
- (2) 各種県行財政部会等への出席
 - 県行財政部合同部長会・代表部長会
 - 県行財政部幹事会・合同幹事会

【研究部活動計画】

第Ⅲ期研究推進

「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子どもを育てる学校経営と校長の在り方」(令和6・7年度)

研究部長 相沢 周
(二本松市立大平小学校)

1 活動方針

- (1) 「研究の手引き～校長の在り方（役割と指導性）～」を踏まえ「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子ども」の育成に向けた校長としての取組が明らかになるように進める。
- (2) 組織的な研究であることを認識し、組織だからこそできる質の高い実践研究を進める。
- (3) 東北連合小学校長会研究協議会青森大会で、第Ⅱ期支会研究の成果を発表（二本松）し、東北の小学校長の職能向上に寄与する。
- (4) 8月に講師を招聘しての支会大会を開催し、安達支会の研究経過を県の「支会研究報告書」に掲載する。
- (5) 令和7年度の県小学校長会研究大会安達大会に向けて運営委員会を組織し、福島支会、伊達支会と連携して計画的に準備を進める。

2 活動内容

- (1) 各方部・各校による実践
- (2) 東北連小青森大会発表と12名の参加
- (3) 県研究大会安達支会大会の開催
- (4) 全連小研究協議会徳島大会への参加
- (5) 「支会研究報告書」の作成（南達）
- (6) 令和7年度県研究大会安達大会に向けての準備

3 研究組織と令和6年度研究の視点

二本松	方部主任 佐藤 睦弘 (原瀬小)	Ⅳ危機管理 7学校安全 自らの命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方 【視点2】 家庭や地域社会との連携・協働を図った組織的・計画的な安全教育・防災教育に関わる取組の推進
東達	方部主任 高松 宏光 (新殿小)	
南達	方部主任 芳賀沼真由美 (糠沢小)	

【生徒指導部活動計画】

生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長 伊藤比呂美
(本宮市立五百川小学校)

1 活動目標と方針

- (1) 県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。
- (2) 生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。
- (3) 幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

2 活動内容

- (1) 生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。
 - ① 「心のケア」を必要とする児童の実態調査
 - ② 「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査
 - ③ 「ネット・SNS利用の実態」ルールに関する調査
- (2) 共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。
- (3) 各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

3 活動計画

- (1) 生徒指導部会
 - 組織・活動計画作成 (4月)
 - 調査の実施 (5～7月)
 - 調査報告書の提供・情報交換 (8月)
 - 今年度の反省と次年度の取組 (2月)
- (2) 各種県生徒指導部会への出席

4 生徒指導部組織

二本松方部 及川 博睦 (杉田小)
東達方部 堀江 茂樹 (旭小)
南達方部 伊藤比呂美 (五百川小)

【広報部活動計画】

学校づくりを支える広報活動

広報部長 高松 宏光
(二本松市立新殿小学校)

1 活動目標

- (1) 会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。
- (2) 関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 広報「安達太良」の発行(年3回)
- (2) 地区広報部会の開催と連携
- (3) 県広報部幹事会との連携
- (4) 県会報等への寄稿

3 活動方針

- (1) 広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員1回を原則として寄稿を依頼する。
- (2) 校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。
- (3) 広報の発行は年3回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。
- (4) 県会報等の寄稿については、支会長より依頼する。
- (5) 会員への会報はメールで届ける。

4 活動日程

- (1) 広報部の活動計画(第1回研修会にて承認)
- (2) 広報部会 (必要に応じてメール等で)
- (3) 広報の発行予定

200号	7月1日
201号	12月1日
202号	3月1日
- (4) 県会報への寄稿
 - ・ 今年度は、258号県会報「【支会だより】今年度の活動に向けて」原稿依頼

5 広報部組織

部長 高松 宏光 (新殿小)
二本松方部 中丸 徹 (石井小)
東達方部 石川 淳 (渋川小)
南達方部 佐藤 健夫 (白岩小)

【新会員として】

「慣れる」「馴染む」

二本松市立渋川小学校 石川 淳

「副校長先生、渋川小は良い学校ですよ。私も昔勤めました。今でも忘れられないのは、着任の時に『早く渋川小に慣れたい』って挨拶をしたら用務員さんに『先生、慣れるのではなくて早く馴染んで下さいね』と言われたことです。家庭的でとても温かい学校ですよ。」

異動の不安が一気に吹き飛んだ。

着任式。まっすぐに純粋でひたむきな子ども達の姿があった。校歌を105名の全校生が体育館いっぱいに響き渡らせ、素敵な歌声で迎え入れてくれた時には、胸が熱くなった。創立150周年を迎えた歴史と伝統のある学校。これが渋川の校風なのだと思う。

渋川小の温かさと同様、安達支会の校長会の先生方も温かく迎えてくださった。「安達は一つ」の合言葉は心強い。いつも親身に相談に乗り、優しく手を差し伸べて下さる姿にどれだけ救われているか…。感謝の気持ちしかない。

社会科免許だからか、地名に目がいく。

安達地区内、また、その周辺には川や水にまつわる地名が多い。もちろん渋川学区にも「弘川、清水、沼、沢」という地名が多くある。

さてさて。「石川」は「渋川」に馴染んできたのだろうか…。

校長会の皆様のお力添えをいただきながら、一日も早く馴染めるよう努めていきたい。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【新任校長として】

師恩桜に見守られて

二本松市立川崎小学校 菅野 桃子

川崎小学校の体育館南側一帯にある「師恩桜」は、まるで校舎と子どもたち、そして教職員を見守るように立ち並んでいます。

「師恩」とは、字のとおり、師匠・先生からの恩のことです。さて、私にとっての師匠・先生とは…もちろんこれまで私に関わってくださった全ての方々です。思い返せば初任者として赴任した単学級の学校でのこと、先輩の先生方がことあるごとに発する「お世話になりました」の意味が若い私には理解できませんでした。本当にお世話になったと思った時に話す言葉であることはわかったのですが、お世話になったかどうかわからない時にも発することを不思議に感じていました。しかし、先輩の先生方の姿から、その言葉の大切さを学び、やがて「お世話になりました」が自然にできるようになっていきました。一見小さなことのようにですが、先輩の先生方は自らの姿勢で初任者の私を導いてくれていたのだと気づき、「教え」の大切さをかみしめました。

校長として、これまで諸先輩方から受けてきた恩を私なりの形で返していくことが、これから子どもたち・教職員を導く際にとっても重要であると考えています。「大変なことがあった時に、あの校長先生はどう対処していたのだろうか」「教職員にはどんな言葉かけをしていただろうか」と思い起こしながら、その時々最善の策を講じられるよう努力していきたくて考えております。なにぶん新任ですので、安達支会の皆様にはご指導とご助言をいただければ幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。



【新任校長として】

美しい村で 夢に向かって

大玉村立大山小学校 澤藤 晃治

福島県の中央に位置し、「美しい村を、美しいままに。」で知られる日本一美しい村連合に加盟する本村、大玉村。雄大な安達太良山の裾野、美しい自然に囲まれ、心美しい村民の方々の笑顔が溢れる。全面芝生で敷き詰められた校庭、多種多様な学校現場の依頼を柔軟に引き受けてくれる学校支援ボランティアの方々、「何でも言ってくれ」と気前のよい地域の有志連合の方々、村教委の手厚い教育施策、創立151年目の本校に対するこの上ない御厚意とその願いに圧倒される。

校長として今の自分にできることは、子どもたち、保護者の方々及び地域の方々の願いに寄り添いながら、喫緊の課題である働き方改革を推進する中で、学校職員の俸せも実現することである。

過日の授業参観で目が潤んだ瞬間があった。多くの保護者の方々に囲まれる中、子どもたちの手が空まで届くかのようにまっすぐに挙がる、挙がる、挙がる。それはまるで本校の教育目標「めがせ！夢に向かってがんばる子」を体現し、夢に向かって精一杯手を伸ばしているかのようだった。

校長として、この子どもたちの夢を支えたい。

校庭に佇む創立100周年の石碑には、脈々と受け継がれる村民の皆様の願いが刻まれている。「敬・愛・信～そこには未来を開き世界につながる人間性の豊かさがある 大山の子どもの輝かしい発展を祈りつつこの碑を建てる」毎朝、この石碑の横を歩き、その文字に込められた願いに思いを馳せ、子どもたちへの挨拶運動に向かう。

校長会の皆様のお力添えをいただきながら、日々成長できるよう自己研鑽を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



【新任校長として】

地域の歴史や文化に学ぶ

二本松市立石井小学校 中丸 徹

教員に採用されてからのほとんどを会津で過ごしてきた私にとって、二本松市はもとより、安達地区は勤務経験がまったくありませんでした。知り合いも少なく、新任校長として不安でいっぱいだった時、安達支会総会で会長は「安達は一つ」と力強く話されました。横のつながりを大切に、協力して困難を乗り越えようと呼びかける言葉にとても勇気づけられました。

校長室の壁には「戒石銘」が掲げられています。初めは、これがどのような物かを知らずに眺めていましたが、二本松市役所や様々な場所で目にし、その意味を知りました。会津藩の「仕の掟」と同じように、「戒石銘」の精神が二本松の誇りであることを知り、その精神を胸に刻み、精進することを決意しました。

また、石井小学校がある石井地区には、重要無形民俗文化財である「石井の七福神踊り」（国指定）や「鈴石神社の太々神楽」（県指定）があります。全国各地で文化の担い手が減っている現状を考えると、地域の人々が、様々な困難に立ち向かいながら、脈々と受け継いでこられたことに心から敬意を表します。

安達地区に赴任し、地域の歴史や文化にふれることは、私にとって大きな経験です。今後は、地域への愛着を深め、地域と連携した教育に取り組みたいと考えています。最後になりましたが、校長会の皆様には日頃より様々なご助言をいただき、大変感謝しております。今後も、どうぞよろしくお願いいたします。

